



文部科学省平成 26～29 年度大学改革推進事業
大学教育再生加速プログラム（AP）Ⅱ.学修成果の可視化

学修の過程の振り返りを支援する 達成度評価の確立と可視化



AP 事業紹介 小冊子

平成 28 年 10 月

八戸工業大学

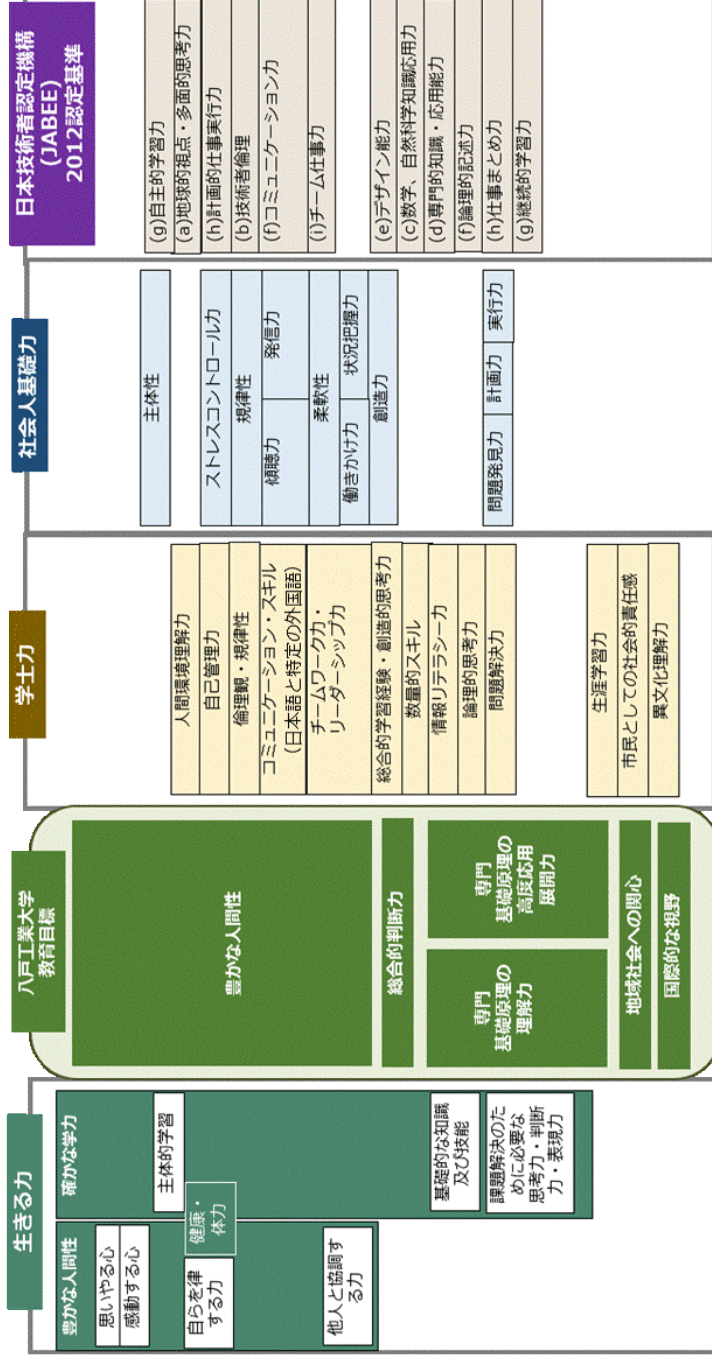


八戸工業大学の教育理念は、「**良き技術は、良き人格から生まれる**」です。

学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造ならびに地域社会の発展に寄与することを目的としています。

修得因子は、学修成果を可視化するための**ベンチマーク**です。

八戸工業大学教育および高大接続、社会との接続



修得因子は、八戸工業大学の教育目標の属性です。高等教育に対し、文部科学省が重要視している「**学士力**」、経済産業省が重要視している「**社会人基礎力**」、**JABEEの認定基準**と関連した**社会接続変数**が含まれています。さらに、初等中等教育を文部科学省が牽引してきた「**生きる力**」を大学教育の視点から捉えた**高大接続変数**が含まれています。修得因子は、汎用性の高い、わかりやすい用語で表示されています。

| 学修成果 | | |
|--------|---------|--------|
| 正課教育成果 | 正課外教育成果 | 自主学習成果 |

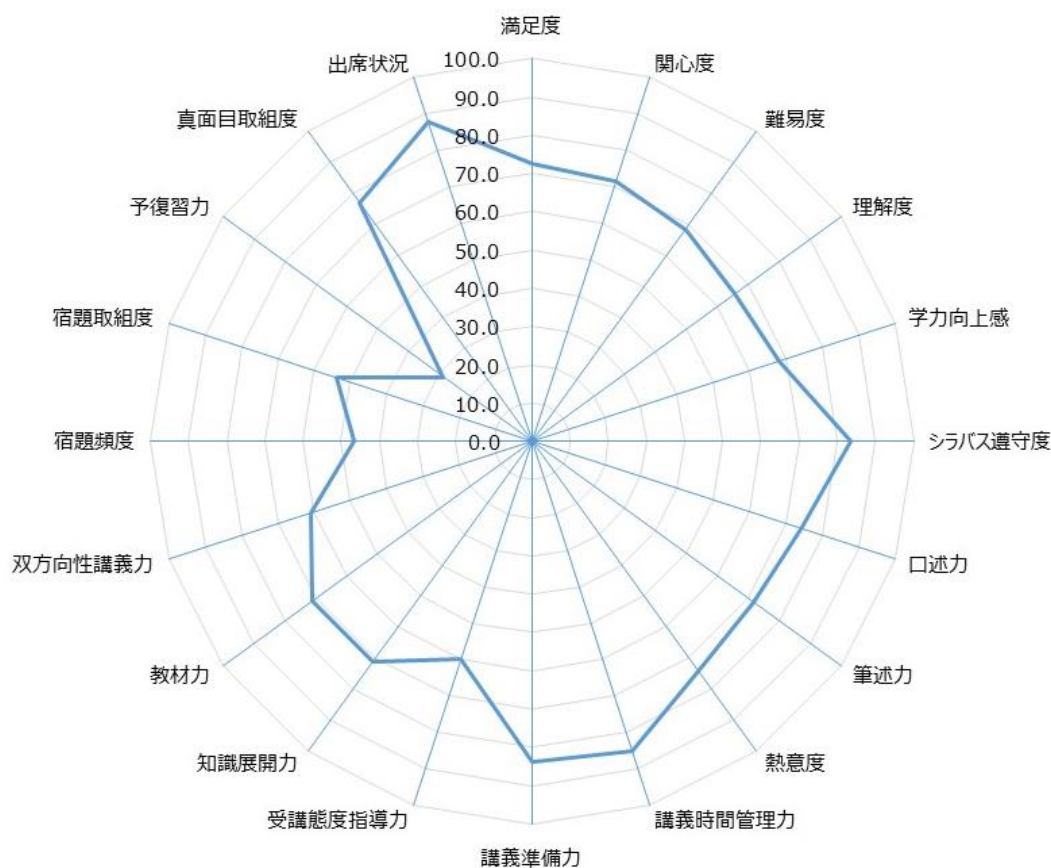
- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業など（実験・実習を含む）の受講成果 ・ 授業の予復習・課題取組成果 ・ 授業終了後、補習や意見交換を行っている学修の成果 ・ 期末試験や小試験の対策学修成果 ・ 卒業研究、卒業制作・論文への取組成果（最終学年のみ） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科・教務・入試関連アルバイト ・ 大学の学生会・部活動・サークルなどの課外活動（学生チャレンジプロジェクト・委託研究補助・コンテストへの参加なども含む） ・ 大学内のベンチャー活動（「キャンパスソフトハウス」プロジェクトなど） ・ 資格取得に関わる全ての活動（セミナー参加、調査、準備なども含む） ・ デザイン・アート制作活動 ・ 企業・団体とのデザイン・アート・コラボレーション活動（打合せ、調査等コラボ活動に関わる全てを含む） ・ 将来の夢や進路に関わる教職員の助言に触発された学修の成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の授業、資格取得とは関係ない自主的な生涯学習（社会教育、文化、スポーツなど） ・ 大学の授業、資格取得とは関係ない自主的な研修会・研究会・講座・講演会参加、読書、Web 学習、インタビュー行動 ・ 就職活動のための調査、自己開発、説明会・就職試験参加に関わる取組からの学習成果 ・ アルバイト、人間関係に伴う対人力学習、教養学習、専門学習などの成果 ・ ボランティア活動に伴う学習成果 |
|---|---|--|

大学は、社会の期待する学修の成果を明確化するよう要請されています。大学において学生が身に付ける学修成果は、**正課教育成果** **正課外教育成果** **自主学習成果**から成り立っています。

授業の成績評価および**教育課程の卒業認定**は、ダイレクトに正課教育成果を可視化しています。

しかし、成績評価、卒業認定で問われる学力は、学生が入学前に獲得した学力、授業受講前に獲得した学力、授業外で自己研鑽した学力などすべての活動の学修成果です。

学修成果の可視化を行うためには、成績評価以外に定量的尺度を開発、測定することが大切です。

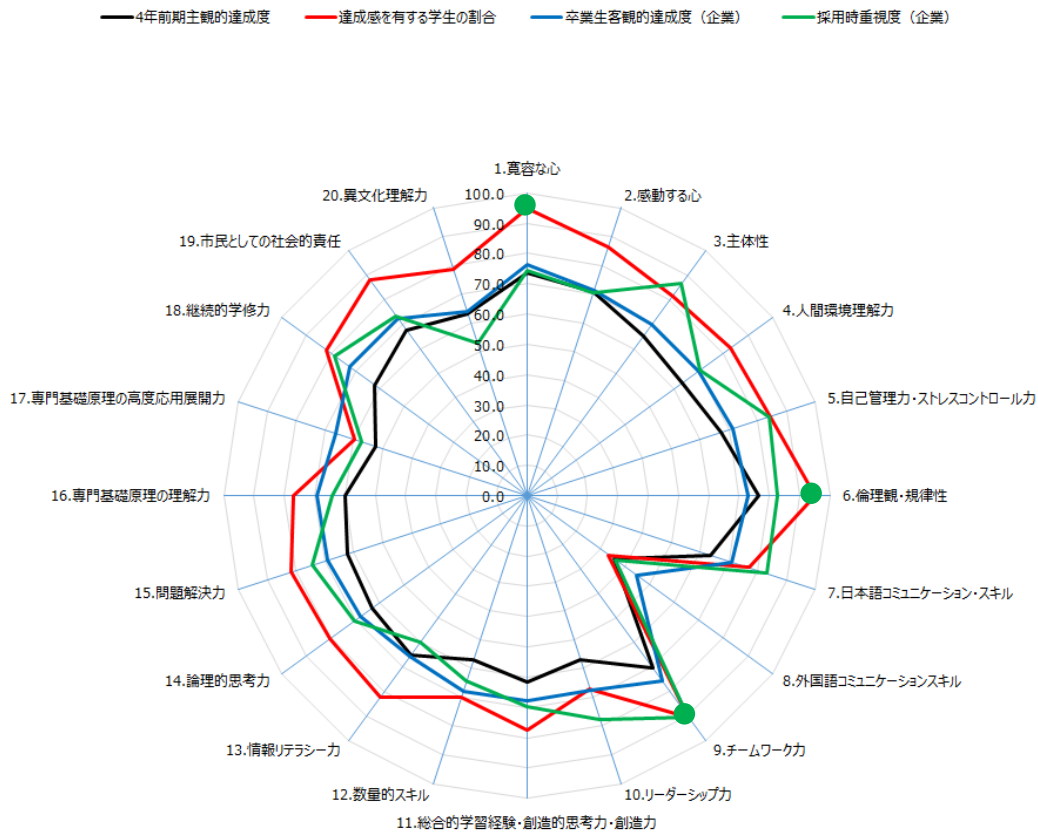


授業の学修成果は、正課教育成果として可視化しています。教員が学生の到達度を数値化する**成績評価**、および学生が教員の授業力、自身の学修力をアンケート回答する**授業評価**によって可視化しています。成績評価は、八戸工業大学が開学された1972年以降、授業評価は、当初から個別に実施していましたが、2002年以降は学内に電子情報が公開されています。

図は、平成27年度前期および後期に授業評価を行った全科目の全受講者が20個の授業評価変数を100点満点で評価した結果を示します。出席状況、講義時間管理力、講義準備力、シラバス遵守度などの授業力は評点80以上であり高く評価されています。授業力の中の宿題頻度、学修力の中の予復習力、宿題取組度は低く評価されています。

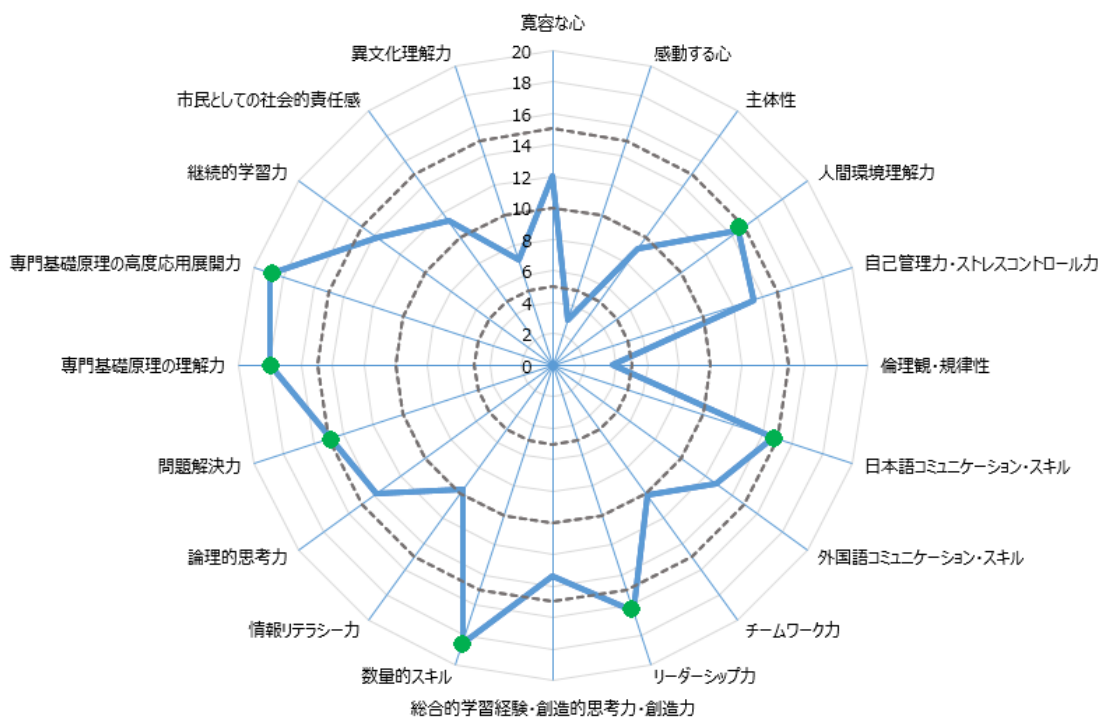
教育課程の学修成果

最終学年における修得因子の達成度



教育課程の正課教育成果は、卒業認定によって可視化しています。平成 27 年度には、正課教育成果を含めた学生生活全体から受けた学修成果を学生に自己評価させる**達成度評価**アンケートを実施しました。および学生が教員の授業力、自身の学修力をアンケート回答する**授業評価**によって可視化しています。レーダーチャートの 20 個の頂点は修得因子に相当し、達成度は 100 点満点で主観的に評価させました。黒線が 4 年前期の学年平均値、青線が企業人事に客観的評価を依頼した入社 3 年以内の本学卒業生の達成度を示します。企業の人材開発を考慮すると 4 年前期の達成度評価は客観的評価と矛盾しないことが分かります。「寛容な心」、「倫理観・規律性」、「チームワーク力」は、4 年生の 90%以上が達成感を有している（朱線）ことが分かります。緑線は、新卒採用時の重視度です。「主体性」、「チームワーク力」への期待度が高いことが分かります。

入学してから卒業までの修得因子達成度の変化



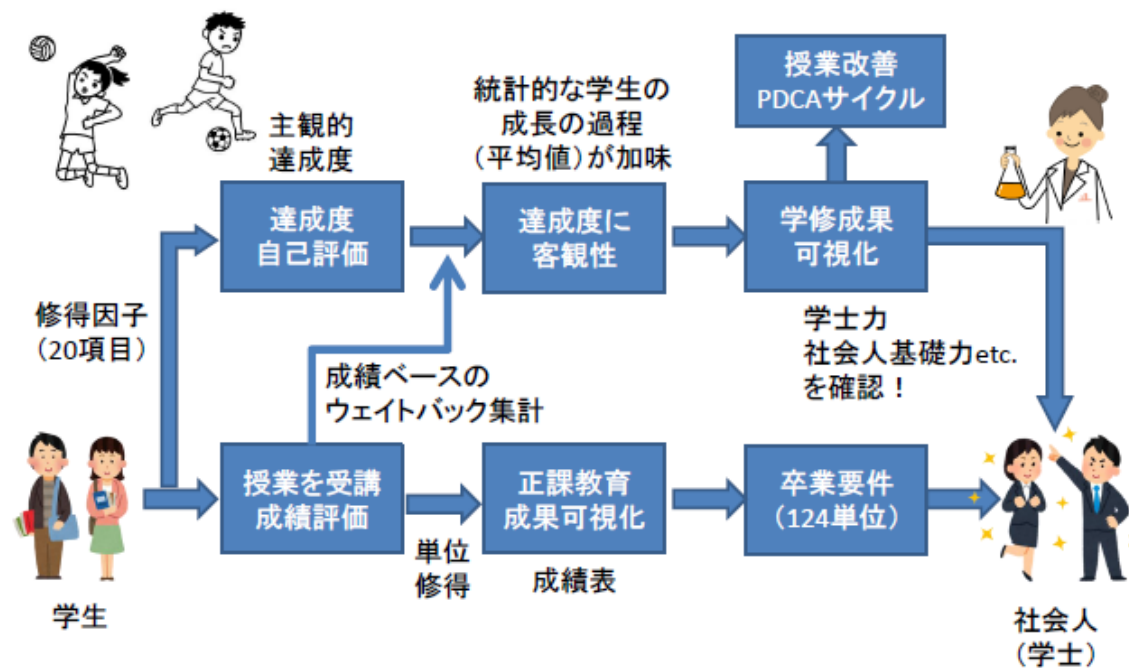
入学してから卒業までに修得因子の達成度が変化した量を図に示します。達成度変化が大きい修得因子は、「人間環境理解力」、「日本語コミュニケーション・スキル」、「リーダーシップ力」、「数量的スキル」、「問題解決力」、「専門基礎原理の理解力」、「専門基礎原理の高度応用展開力」であることが分かります。最終学年における達成度が高い修得因子とは必ずしも一致していません。最終学年における達成度が高い修得因子は、高校までの教育課程の学修成果がもたらすベースラインが大きく貢献していることが分かります。

入学してから卒業までの修得因子達成度の変化は、本学における学修成果を可視化しています。学生は、大学生活において、図中、緑色でマークした修得因子を身に付けたと感じています。

主観的達成度評価を支える

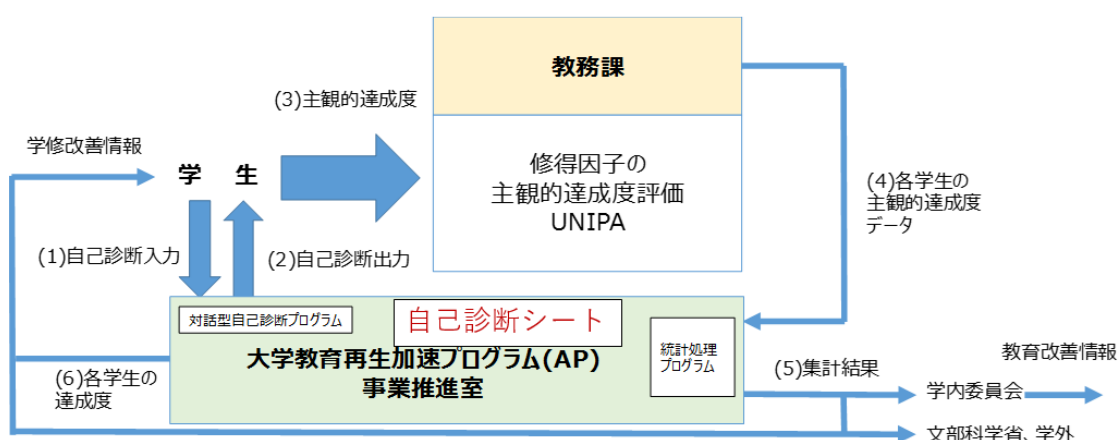
システム開発

シミュレーション解析システム



修得因子の中で、「日本語コミュニケーション・スキル」、「外国語コミュニケーション・スキル」、「数量的スキル」、「情報リテラシー力」、「論理的思考力」、「問題解決力」、「専門基礎原理の理解力」、「専門基礎原理の高度応用展開力」は、正課教育成果との関連性が高いと考え、複数授業科目の成績評価からシミュレーションによって達成度を把握する手法を開発しています。

自己診断システム



- 修得因子の自己診断シート（ルーブリック）に記入し，その診断結果（0～100の数値）を算出
⇒Webシステムでの入力，自動出力も検討
- この結果を参考に自己の主観的達成度を評価

修得因子の中で、「寛容な心」、「感動する心」、「主体性」、「人間環境理解力」、「自己管理能力・ストレスコントロール力」、「倫理観・規律性」、「チームワーク力」、「リーダーシップ力」、「総合的学習経験・創造的思考力・創造力」、「継続的学習力」、「市民としての社会的責任感」、「異文化理解力」は、多分野に亘る正課教育の成果、正課外教育成果、自主学習成果との関連性が高いと考え、電子版双方性の修得因子・自己診断シート（ルーブリック）から自己診断レベルを選択させ、達成度を把握する手法を開発しています。学生は主観的に入りますが、8～67 個の小問に回答させることによって、客観性のレベルを高めるように工夫しています。

謝辞：本事業は、文部科学省大学改革推進事業・大学教育再生加速プログラム（AP）の補助金の下に進めている。ここに謝意を表す。

■お問い合わせ先■

八戸工業大学 AP事業推進室

TEL：0178-25-8163（直通）

E-mail：ap-staff@hi-tech.ac.jp

AP事業ホームページ URL↓↓↓

【<http://www.hi-tech.ac.jp/ap/>】